

提出日 7年 9月 16日

公益財団法人 日本漢字能力検定協会
2025年度漢字まなび活動助成制度 活動報告書

団体名：福島県漢字同好会

代表者名：会長 八重樫 一

下記の活動について活動を終了いたしましたので、報告いたします。

1. 活動名	～福島県漢字同好会 笹原 宏之教授 特別講演会～		
2. 活動日 活動期間	令和7年7月27日(日)		
3. 活動場所	郡山市 市民交流プラザ 大会議室（郡山駅前 ビックアイ7階）		
4. 活動目的	漢字に親しみ、興味をもっていただくこと。 漢字文化への理解を深めること。		
5. 対象	対象 同好会会員・一般の方（漢字に興味のある方ならどなたでも） 定員 100名		
6. 参加費	無料		
7. 参加人数	71	名	内訳（小学生 名、中学生 名、高校生 名、一般71名）
8. 活動結果 (自由記述・写真貼り付け等可)	1 演題 今どきの名前と漢字 ～「陽葵」と「蒼空」はキラキラネーム？～ 2 内容 国字研究の第一人者であり、人名漢字や常用漢字の辞書選定に関わる早稲田大学 笹原先生による「今どきの名前と漢字」に纏わる講演。 3 感想 最初に日本人の名前に着目し、昭和元年・昭和40年のベスト10の名前や歴史上の人物の名前、昨年のパリオリンピックで活躍した選手の名前を見ていくと、昭和期の女の子の名前の一番人気の「和子」や鎌倉時代の「源頼朝」も当時にすれば読みの根拠が不明だったり難解だったがやがて定着したことが分かった。 日本には日本文化や習慣を表すために文字を作り出した「国字」を生んだ漢字文化があり、それが現在の自由な読みに繋がっている事に気づかされた。 講師は、法制審議会の戸籍法部会委員として第1回会議から議論に深く携わっており、辞典には見られない読み方が案外埒外のものとはみなせないことを訴え、注釈に『審査においては、幅広い名乗り訓を許容してきた我が国の命名文化を踏まえた運用とする』となった経過もたいへん興味深かった。 令和7年5月27日に改正戸籍法が施行され、市民の注目も高まっているところでもあり、笹原先生の熱意が伝わる講話に71名の参加者も興味深い様子で終始聞きいていた。 参加者からも孫や子供の珍しい名前が寄せられたり、閉会まで質問が飛び交う活発な講演会だった。		

以下の資料を必ず添付して申請してください。

☒ 【様式2-2】漢字まなび活動助成制度 収支決算書☒ 収支決算書に記載した費目の領収書のコピー（折り曲げず、領収書貼付用台紙に貼り付けて提出ください）

・複数ページにまたがっていただいても結構です。

・本報告書の内容は、当協会ホームページ等で公表します。写真等は公表しても差し支えないものをご提供ください。

書類の送付先

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 「漢字まなび活動助成」係

メール:planning@ic.kanken.or.jp

郵送:〒605-0074 京都市東山区祇園町南側551番地